

# シンポジウム “栃木県の温泉について”

Symposium on the Hot Springs in Tochigi Prefecture

## 1. 歴 史

塩原温泉旅館組合 田代 太平

(昭和49年8月30日受理)

On the History of the Spas in Tochigi Prefecture

Tahei TASHIRO

Shiobara Hot Springs Association

温泉史を綴る基となる伝説には、噴泉伝説、発見伝説、入湯伝説の三種に分別される。温泉国日本のなかでも栃木県は特にその数が多く、大別して12郷、更に詳計すると約90余湯となる。それぞれに伝説をもち歴史を綴っているが、与えられた時間の関係で古くから衆知の日光湯元、川治・鬼怒川、塩原、那須について述べてみたい。天然記念物の噴泉塔をもつ川俣温泉が噴泉伝説である外はいずれも発見伝説に属している。

- 日光湯元温泉  
約千四百年前、日光男体山開祖の勝道上人が発見されたと伝えるが—
- 川治温泉  
享保三年八月に五十里湖が崩壊した際に村民が発見し、当時13戸であった村の共有として用いられたと伝えるが—
- 鬼怒川温泉  
元禄時代に村民により発見されたが日光奉行が日光山の僧侶達とはかり一般人の入湯を禁じたため、村民と所有権の葛藤の一幕が演ぜられたと云うが—
- 塩原温泉  
大向二年に如葛仙と称する仙人が発見し、後に弘法大師が来浴し世にひろめたと伝えられているが—
- 那須温泉  
舒明天皇の御代、郡司狩野三郎行広なる者が狩に出て鹿を追うて山中に入り発見したと説かれているが—